

裾野にまつわる伝説と古道

頼朝の伝説について

頼朝の井戸

十里木地区に次のような伝説が残っています。建久4年（1193年）の源頼朝が富士の巻狩りの際、豪族葛山氏の館に一泊し、翌日から十里木付近で巻狩りが行われた。この時、頼朝が休憩し喉を潤した湧水地があった。この伝説から井戸とその周辺の森とをあわせて頼朝の井戸の森と語り継がれています。「須山地区の文化財めぐり」より



「頼朝公盃」と題しての伝説

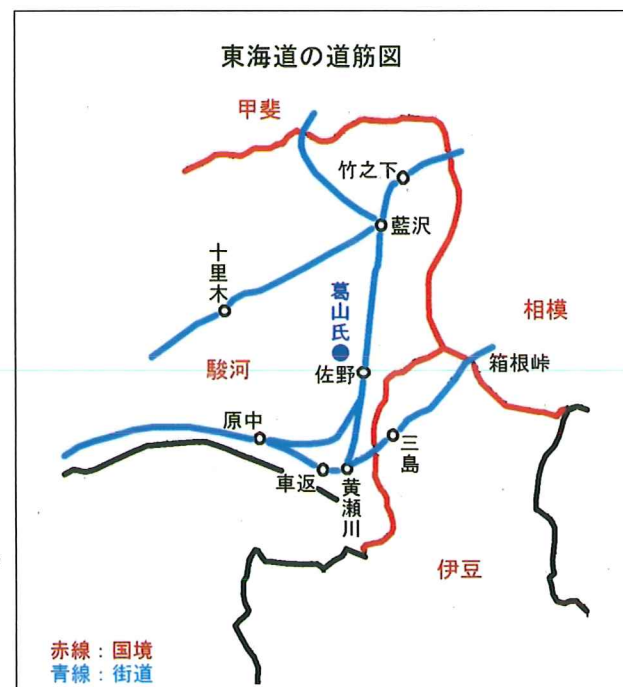
源頼朝が鎌倉に幕府を開いた次の年、頼朝公がこの十里木のあたりで大巻き狩りを行った。幕府の基礎がすっかりかたまって、将軍という地位にも落ちついた頼朝公は、武士たちの訓練も兼ねながら鎌倉をとり巻く国々の様子を視察しようと思ったのである。頼朝公は一万一千騎を従えて、堂々と富士の裾野のりこんできた。鹿を追い、うさぎを狩る日が幾日も続いたある日、その日も朝からたくさんの獲物を追い立てていた。昼近くなってほら貝が鳴り、一休みすることになった。涼しい風が吹き抜けるブナの林の中で一休みした頼朝公はひどくのどがかわいたので、近くの家来に声をかけた。『だれか、水をもて。』……（続きます。裾野市史民俗編をご覧ください）

頼朝伝説は市内の御宿、今里などにも伝えられています。

裾野市内を通過していた鎌倉時代の足柄路

鎌倉時代以前の足柄路（東海道）は国家への貢物の輸送や官吏の往還道として京の都と東国を結ぶだけの利用が主でした。しかし、鎌倉幕府成立後には六波羅探題が設置されたり、地方の御家人が御所などの警護や地方で発生した訴訟事件の裁定を幕府が行うため鎌倉と地方の往還が頻繁になっていきました。鎌倉を中心とした鎌倉街道と呼ばれる交通網整備が行われ、集落の発展に伴い宿なども出来ていきました。

足柄路は裾野市域を通過していたことで源頼朝をはじめ、文人や多くの人々が往来をしたと考えられています。



「楽しい郷土史だより」第10号は、2022年NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の舞台となる鎌倉時代にちなんで、当時の裾野市はどんな状況であったのか（どんな氏族が生活していたのか、源頼朝や幕府とはどんな関係にあったのかなど）を浮き彫りにしたいと思います。

鎌倉時代の概略

小・中学校では、貴族に雇われる身分であった武士が力をつけ、平清盛が政治の権力を握っていた平安時代から、源頼朝が、平家を倒し、天皇から征夷大將軍に任じられ、鎌倉に幕府を開いたことから始まる時代と習ったと思います。

教科書には、鎌倉幕府の成立は、1192年（イイクニ）と載っていましたが、現在は守護・地頭が設置された1185年が有力視されています。

鎌倉幕府は頼朝の死後その子頼家が2代将軍となって政権を担当しますが、それを支えるために有力な家来（御家人）13人の「合議制」が始まります。さまざまな勢力争いの結果、実権を握ったのは二代目執権、北条義時です。この北条義時の生涯を描くのが「鎌倉殿の13人」です。

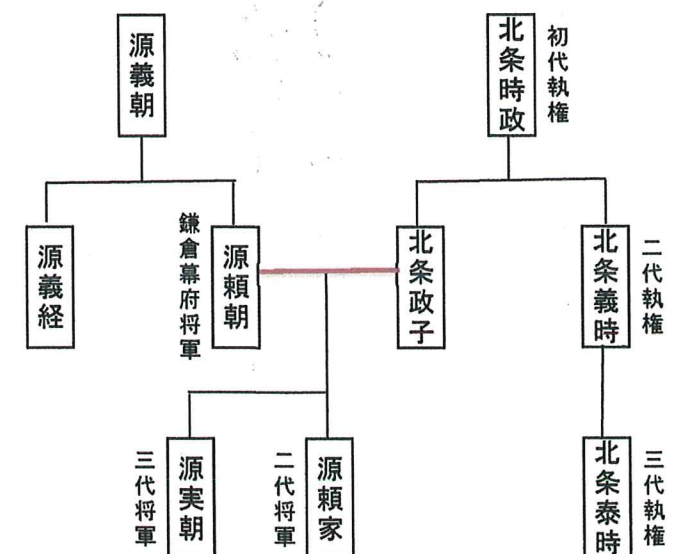
鎌倉幕府は約150年ほど続きますが、源氏直系の将軍は3代実朝まで（約30年）で、以後は京都から貴族を迎え、形式的な将軍とし、政治の実権は北条氏が執権として独占していきます。ですから鎌倉時代は、北条氏が政治権力を握り、武家政治の基礎を作ったと言ってもいいかもしれません。

執権ってどんな役職？

鎌倉幕府の職の一つで、将軍を補佐し政務を統括する重職です。頼朝が生きていた頃は、それほど力を持ってはいませんでした。死後北条氏が代々執権職に就き、政治の実権を握っていきました。

初代の執権は、北条時政、2代が「鎌倉殿の13人」の主人公北条義時です。

源氏と北条氏の系図



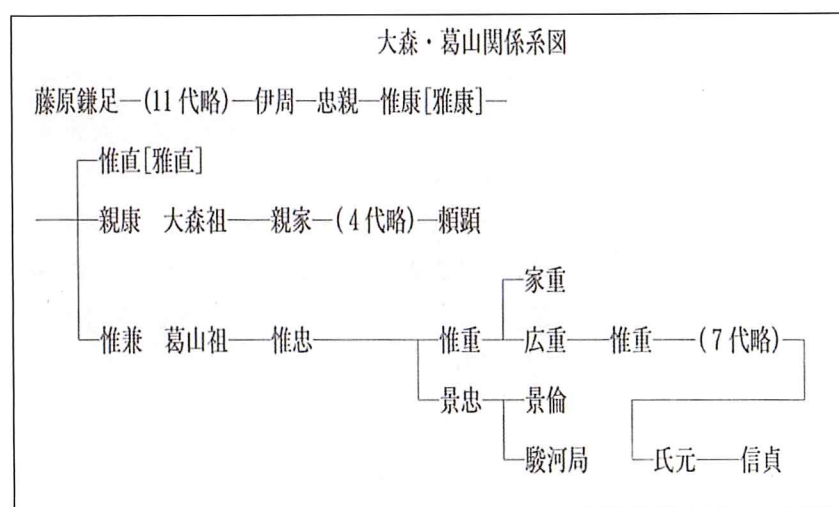
裾野を本拠とした鎌倉時代の武将

鎌倉時代以降に大森氏、葛山氏という武士の存在について何人かの人物の動向が、史料系図類から確認できます。なかでも比較的その事績が明らかな葛山五郎景倫や鎌倉幕府執権北条氏との関係のあった人物などを紹介しましょう。

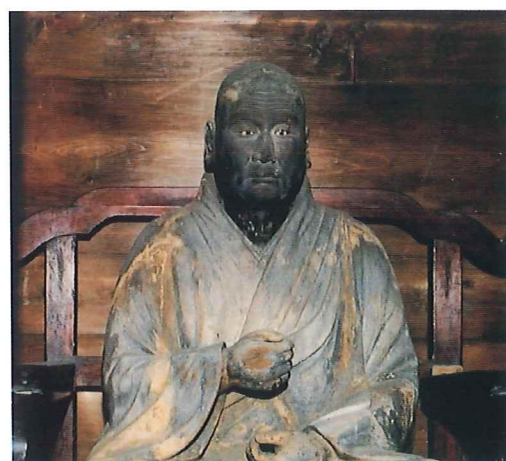
葛山五郎景倫 かげとも（出家後に願性（がんしょう） 生年不詳～1276年没）

この人は、姉の駿河局が北条政子に仕えていたことから幕府三代将軍の近習として源実朝に仕えました。宋への渡航使節団12名の中心的一員として博多（一説には紀伊由良）に滞在中、鶴岡八幡宮での実朝の暗殺を知ります。渡宋を中止し戻り、実朝の菩提を弔うため高野山へ入山、出家し願性と名を改めます。主君への忠誠に実朝の母北条政子から紀伊の国(和歌山県)由良荘の地頭職を与えられ、後に西方寺(後の興国寺)を建立、禅僧「覚心」の渡宋の援助などを行い高僧として名を残しています。

※葛山景倫（願性）について由良町誌通史編に「葛山五郎景倫、富士山のすそ野葛山の豪族で鎌倉三代将軍源実朝の近習・・・」と詳しく記述されています。



(裾野市史より)



願性(葛山五郎)座像 (裾野市史より)

葛山小次郎 (実名は不明)

この人は、1221年に起きた承久の乱(後鳥羽上皇が鎌倉幕府を打倒するために起こした兵乱のことである)の際、幕府軍が京都へ攻める先発隊に北条義時の嫡男北条泰時を総大将とした先発隊18騎のなかの1人です。小次郎は宇治合戦で負傷しますが葛山太郎という武士が敵一人を討ち取っているとされています。小次郎は有力な御家人とされ「大森葛山系図」によると惟重の子で小二郎と称した広重で、事績記事に『将軍頼朝公鶴岡御社参の時、烏帽子・直垂(ひたたれ)を着け剣を帯びる』とあり、北条義時から招かれて兵具を与えられています。

また、承久の乱を鎮圧した北条泰時軍のなかに大森弥二郎兄弟がいたことが「承久記」という軍記物語で確認されますが駿河の大森氏とは断定されていません。

※直垂(ひたたれ) → 当時の男子の正装



葛山城(山城)全景

鎌倉時代から室町時代へ—葛山氏と大森氏—

正月恒例の幕府行事である弓始め儀式の記録「御的日記」には、1309年～1316年及び1326年の記録に葛山惟資、葛山孫六等の名を見ることができます。また、鎌倉円覚寺で毎月四日に行われた8代執権北条時宗の法事執行担当者名簿の二番に葛山左衛門尉、三番に大森右衛門入道、葛山六郎兵の名がみえます。「円覚寺大斎結番注文」(円覚寺所蔵文書)

さらに、幕府内で行われた法華宗の争論記録「鎌倉殿中間答記録」1318年(文保2年)によると第14代高崎の時、幕府権力の中心人物の名の下欄に葛山六郎の名が見え、葛山氏が幕府権力に深く関わっていたのではと推測されます。

大森氏については、1323年9代執権北条貞時の「13年忌供養記」によると太刀一振り、馬1匹を葛山六郎が、銀剣一振りと馬1匹を大森入道が進上していると記録されています。

史料等から大森氏の台頭が明らかにされるのは応永13年(1406年)以降の伊豆府中関所史料に関役人として名前が登場します。関銭徴収の仕事はその地域でも経済的に実力者が行っていたことから大森氏が駿東郡から箱根道の交通の拠点を抑える実力者だったことがわかります。

大森氏は御料所の代官として鎌倉公方、足利持氏と関係を強固にし、流通・交通網支配を展開、さらに弟の証実が箱根権現の別当に就任したことで箱根芦ノ湖も掌握、鎌倉と直結し、次第に権力を確立していったのです。

※馬一匹→当時は「一頭」でなく、「一匹(疋)」と数えていた。

【編集・発行】裾野市文化財保護審議会・裾野市教育委員会生涯学習課

裾野市深良435番地 TEL055-994-0145 FAX055-992-4047

当パンフレットは、市役所、生涯学習センター、鈴木図書館、東西公民館、市民文化センターに配架しています。

また、市公式ウェブサイトでも公開しています。



ウェブサイト▲